

この記事の問い合わせ先：
シャウナ・シウダ
広報部長
1-630-468-7075
Shauna.Schuda@LionsClubs.org

即時リリース用

ライオン国際平和作文コンテストにおいて、カナダの小学6年生、キートン・ハミルトン君が大賞を受賞

(イリノイ州オークブルック発) -カナダのオンタリオ州に住む12歳のキートン・ハミルトン君は、平和とは何なのかをよく理解しています。ハミルトン君は「リーダーになった友達」と題した作文を書き、自分の考えを世界の人々に示しましたが、この作文が大賞に選ばれました。正しいと信じることのために立ち上がるという善い行いを描いたものです。

「ライオンズ国際平和作文コンテストは、参加者を勇気づけ、私たちが思いやりをもって指導することで何が起こるかを教えてくれます」とライオンズ国際会長のブライアン・シーハンは言います。「私たちは皆、キートンから何かを学び、平和を推進し広めようという、彼のメッセージに応えることができるのです」

ライオンズ国際平和作文コンテストは、目の不自由な青少年に平和への思いを表現する機会を与えるもので、世界中のライオンズクラブの主力事業となっています。ライオンズは地元の学校や家族と協力して、このコンテストへの参加に関心があり、恩恵を受ける可能性のある青少年を探し出しています。

平和というテーマについてハミルトン君は、「僕は安全で快適で、保護が受けられる国で暮らしているので幸運です」と話します。「僕は衣食住の心配をする必要がないし、安全です。世界の誰もが安全で快適だと感じられるようになればいいと思います」

今回彼の作文が大賞に選ばれた理由は、独創性、構成がしっかりしていること、そして今年のテーマ「思いやりのあるリーダーになろう」を上手に描いたその表現力です。

オンタリオ州のニューマーケット・ライオンズクラブが、地元でのコンテストをスポンサーし、6年生のハミルトン君に世界的なイベントに参加する機会、そして彼の平和への言葉を世界と共有する機会を提供しました。ハミルトン君は作文を通して、最も価値あるリーダーとは、沈黙している方が楽な場合でも、発言することによって高潔な精神を示す人であるという考えを示しました。彼の作文ではまた、地域社会の中で助け合う仕組みを維持することの重要性も強調しています。私たちの周りにいる人々が、好意や救いの手を必要としているときには親切にすることです。6年生のハミルトン君は最後に、助けを求めることを恐れることはない、思いやりのあるリーダーは必ず周りにいるからという言葉で、作文を締めくくっています。

「学校、スポーツ、アクティビティ、作文など、どんな機会も活用するようにしています」とハミルトン君は付け加えます。「(ライオンズ国際平和作文コンテストは)視覚障がい者にとって、文章で自己表現し、成功するための機会を提供してくれるものです」現在 12 歳の彼は、天文学者になって、世界中の視覚障がい者のコミュニティ、さらには宇宙での機会を増やす手助けをしたいと望んでいます。

大賞受賞者であるハミルトン君は、ニューヨークでの国連ライオンズ・デーおよびボストンでのライオンズクラブ国際大会に招待され、5,000 ドルの賞金が贈られる予定です。彼の作文やコンテストの詳細は lionsclubs.org/peace-essay から閲覧できます。

ライオンズ・インターナショナルは、世界 200 を超える国と地域の 140 万人以上の男女が集まる世界最大の奉仕クラブ組織です。ライオンズ・インターナショナルは、世界中の青少年の心に平和と国際理解の精神を育むために平和作文コンテストを行うようになりました。

リーダーになった友達 キートン・ハミルトン 12歳

今、この瞬間、どこにいる人も、あなたが5年生の新入生であると想像してみしてほしいのです。身長170cmで、テレビゲームが好きで、スポーツもやっている、普通の子供です。ただしこのクラスで、あなたと他の生徒たちとの間には壁があります（もちろん文字どおりの、物理的な壁という意味ではありません）。あなたは目がよく見えないのです。白いページに書かれた文字がということではなく、自分の周りにあるものすべてがはっきりとは見えません。誰の目の色もわかりませんし、机や椅子やマーカーの色も見えません。今、黒髪の背の低い子が、ドアの横のフックにあなたの白い杖がかかっているのを見つけてじっと見ています。「あれっ、これはもしかして槍かな？」なんて、誰かに嫌な思いをさせようと、わざとこんなことを言うのです。「違うよ、それは…僕の杖だ」と、あなたは小さな声で言い返します。「学校に武器を持ってきちゃダメって聞かなかった？」「これは武器じゃない、僕の白杖だ」「白って自分でわかるのか…」

「ひどいこと言うのは、もうそのぐらいにしとけ」と、そのとき別の生徒が強い調子で言いました。「これは彼のような人たちが周囲の様子を確かめるための道具だよ、目が見えないから何もできないなんて考える必要はないんだ。本人にどうにもできないことでいじめるなよ！」

その生徒はあなたのために立ち上がってくれました。彼が自分の意志でとった行動です。黙ってやりすごしたり、無視したりすることもできたはずですが、でもこのときはいじめっ子の前に立ち上がり、あなたをかばってくれた人がいました。これは「思いやりのあるリーダーになろう」の一例であり、この例がなかったとしても、誰もが自分の人生の中で、次のことが思い当たるのではないのでしょうか。自分のために気を配ってくれたり、何かを手伝ってくれたり、一般的に役立つヒントをくれたりした誰かの存在です。学校に通っている人なら先生は、コンピューターを使う場合でも紙と鉛筆しか使えない場合でも、あなたにとって最善の方法で勉強

が進められるように、あなたを指導してくれるでしょう。友達も思いやりのあるリーダーになります。結局のところ、思いやりに欠ける人は偉そうで、自分のことしか考えていないのです。

私たちは皆、見守られているときの感覚、頼れる友人がいるときの感覚を知っています。目標を達成しようとするときに、背中を押してくれる人がいると思えることは、人生においてひとときわ輝くダイヤモンドのような貴重な宝と言えるでしょう。

勉強するための場にいるとき、グループの中にいるとき、そして独りでいるときでも私たちは皆、仲間に歓迎されていて、安全であることを保証する役割を担っています。親友になる必要はありませんが、少なくとも周りの人に気を配り、助けを求められたら必ず助けるようにしましょう。地域社会の誰もが責任を持ち、誰もが自分の居場所があると感じ、助けを求めている人に支援の手を差し伸べる必要があります。たとえその人が他の地域の住民であっても、困っている様子だったら、微笑みながら手を差し伸べてあげましょう。こうすることで新しい友達ができるのです。忘れてならないのは、他人に助けを求めても害はないということです。善人はその声に応えてくれますし、お互いに気遣いができます。友人ならそれが当然の行動ですし、「思いやりのあるリーダーになろう」というテーマの大事なポイントです。